

令和6年度

県立広島大学助産学専攻科入学試験

専門科目入学試験問題

(母性看護学・小児看護学)

試験時間 10:00～11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子（16ページ）には、解答用紙（2枚）が挟み込んであります。試験開始の合図があったら、直ちに中を確認、印刷や枚数の不備などがあった場合、監督者に申し出なさい。
- 3 問題冊子の間に挟み込んである解答用紙を取り出して、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。
- 5 試験室で配付された問題冊子は、退出時に持ち帰りなさい。

このページは白紙です。

このページは白紙です。

I 次の【問1】～【問6】に答えなさい。

【問1】 次の文章で正しいものはどれか。次の a～e の中からすべて選びなさい。

- a. 助産師は、妊産褥婦、胎児または新生児に異常を認めたときは、医師の診療を求め、自ら臨時応急の手当てを行うことができる（保健師助産師看護師法）。
- b. 業務に従事する助産師は、2年ごとに厚生労働省令で定める事項を、その就業地の都道府県知事に届け出をする必要がある（保健師助産師看護師法）。
- c. 助産師が分娩介助を行った場合も、出生証明書の交付ができるのは医師のみである（保健師助産師看護師法）。
- d. 助産師が分娩介助をしたときは、助産に関する事項を遅滞なく助産録に記載しなければならない（保健師助産師看護師法）。
- e. 助産師が助産所を開設した場合、14日以内に助産所の所在地の都道府県知事に届け出なければならない（医療法）。

【問2】 下記の組み合わせで正しいものはどれか。次の a～e の中からすべて選びなさい。

- a. 戸籍法 _____ 死産届
- b. 健康保険法 _____ 出産扶助
- c. 母子保健法 _____ 受胎調節実地指導
- d. 児童福祉法 _____ 特定妊婦
- e. 次世代育成支援対策推進法 _____ 行動計画策定指針

【問3】 「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動（健康日本21（第三次））における「第一 国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向」について、正しいものはどれか。次の a～e の中からすべて選びなさい。

- a. 社会環境の質の向上
- b. 合計特殊出生率の向上
- c. 個人の行動と健康状態の改善
- d. 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- e. ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

【問4】更年期障害に現れる精神神経症状について、正しいものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 閉経前の女性に発症することはない。
- b. 血中エストロゲン濃度と発症は無関係である。
- c. 元来の性格が発症に関連する。
- d. 統合失調症と混同されることがある。
- e. 幻覚を訴えることがある。

【問5】加齢に伴うエストロゲン欠乏症状の発症時期（図1）について、①～⑥に入る正しい語句を [] のa～gから選びなさい。

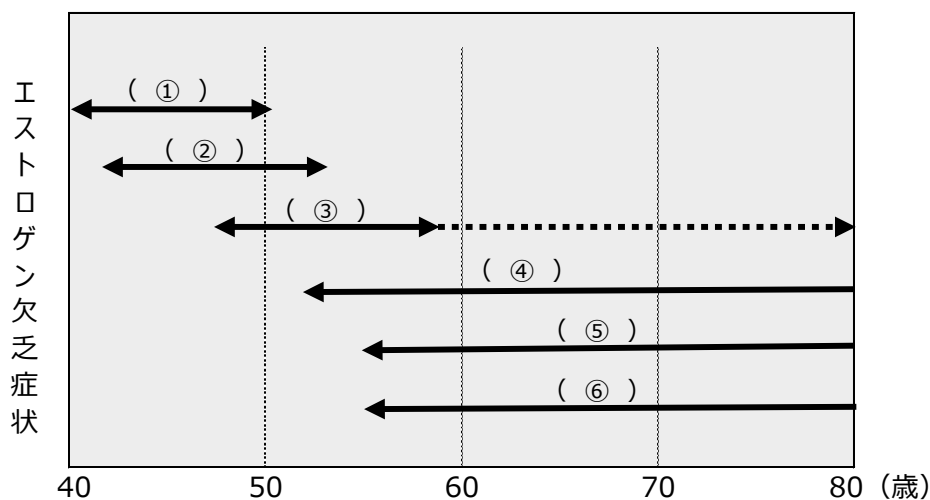


図1 加齢に伴うエストロゲン欠乏症状の発症時期

- a. 血管運動神経症状 b. 月経異常 c. 骨粗しょう症 d. 消化器症状
 e. 心血管系疾患 f. 精神神経症状 g. 泌尿・生殖器の萎縮症状

【問6】老年期の発症で性差を認めない疾患はどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 老視
- b. 尿失禁
- c. 骨粗しょう症
- d. 虚血性心疾患
- e. アルツハイマー病

Ⅱ 次の【問1】～【問3】に答えなさい。

【問1】妊婦の喫煙と切迫早産との関連を調査した結果を以下に示す。調査対象者は1,466名であった。非喫煙者は1,427名で、このうち切迫早産は50名であった。喫煙者は39名で、このうち切迫早産は3名であった。

次の(1)～(3)に答えなさい。

(1) この研究デザインで正しいものはどれか。次のa～eの中から1つ選びなさい。

- a. 介入研究
- b. 横断研究
- c. 症例対照研究
- d. 生態学的研究
- e. コホート研究

(2) 表1は妊婦の喫煙／非喫煙に対する切迫早産の有無の四分表である。表中の①～⑥に当てはまる数値を入れなさい。

表1 喫煙の有無と切迫早産との関連

| | 切迫早産 | 切迫早産非該当 | 合計 |
|-----|-------|---------|-------|
| 喫煙 | (①) | (②) | (③) |
| 非喫煙 | (④) | (⑤) | (⑥) |

(3) この調査からわかることを100字程度で記述しなさい。なお、適宜、数値を示しても構わない。

【問2】医療機関では、体制を整備し「院内助産」および「助産師外来」を提供している。次の(1)～(3)に答えなさい。

(1)「院内助産」および「助産師外来」について、それぞれに該当する機能はどれか。次のa～fの中からすべて選びなさい。ただし、重複して選択しても構わない。

- a. 緊急時の対応が可能であること
- b. 健康診査や保健指導を行えること
- c. 助産師が産科医師と役割分担するチーム医療
- d. 助産師が妊産褥婦とその家族の意向を尊重する
- e. 正常・異常を判断して助産ケアを提供すること
- f. 妊娠から産褥1か月頃まで助産ケアを提供する

(2) 院内助産と助産師外来の開設割合について、2017年と2020年を比較したものを示す。誤っているものはどれか。次のa～eの中から1つ選びなさい。

- a. 院内助産がある病院数は減少傾向である。
- b. 院内助産がある診療所数は増加傾向である。
- c. 助産師外来がある病院数は増加傾向である。
- d. 助産師外来がある診療所数は有床では減少傾向である。
- e. 助産師外来がある診療所数は無床では増加傾向である。

【問3】母子保健について、正しいものはどれか。次のa～eの中から2つ選びなさい。

- a. 産前・産後休業は、母子保健法で規定されている。
- b. 未熟児訪問指導の実施主体は市町村である。
- c. 1歳6か月児の健康診査は母子保健法で規定されている。
- d. 育成医療の医療給付は母子保健法で規定されている。
- e. 低体重児の届出対象は出生時体重2,000g未満の乳児である。

Ⅲ 事例 A さんの各期における経過 を読んで、【問 1】～【問 3】に答えなさい。

【問 1】 妊娠期の経過を示す。次の (1)～(4) に答えなさい。

A さん、32 歳、初産婦。身長：160cm、非妊時体重：46.5kg。夫と二人暮らしで、職業は医療事務である。

妊娠 8 週、超音波診断にて胎児心拍動が確認できた。A さんは「なかなか妊娠しなかったのが嬉しい。これから、母子健康手帳をもらいに行きます」と話した。

妊娠 24 週、A さんから「つわりがおさまってから食事が楽しくて、よく友達と外食をしています。妊娠中の食事で気をつけた方がいいことはありますか。体重が気になっています。できるだけ太りたくないんです」と質問があった。血圧：110/64mmHg、体重：52.0kg、尿蛋白（－）、尿糖（－）、両下肢の浮腫（－）であった。A さんに母乳育児の意向を聞くと、「母乳育児を頑張りたいです。最近、母乳がにじんできているみたいなんですけど、今のうちから何かしておいた方がいいですか」と質問があった。乳房Ⅱa 型、右仮性陥没乳頭、左短小乳頭。乳頭先端に乾燥した乳汁が付着している。

(1) 母子健康手帳について正しいのはどれか。次の a～e の中からすべて選びなさい。

- a. 母子健康手帳は都道府県が交付する。
- b. 妊娠 10 週以降に交付される。
- c. 妊娠証明書を提出する必要がある。
- d. 妊娠中に交付を受けなかった場合、分娩後に交付を受けることができる。
- e. 多胎の場合、子ども一人につき 1 冊の手帳が交付される。

(2) Aさんの非妊時のBMIを計算し、Aさんへの妊娠中の体重増加指導の目安(「妊産婦のための食生活指針：厚生労働省2021」)を次のa～fの中から選びなさい。ただし、BMIは小数点第二位を四捨五入すること。

- a. 7～10kg
- b. 7～12kg
- c. 9～12kg
- d. 10～13kg
- e. 12～15kg
- f. 個別対応(上限5kgまでが目安)

(3) 妊娠中の食事について、助産師の説明をa～eに示す。適切なものには○を、不適切なものには×をつけなさい。

- a. 「蜂蜜はボツリヌス症にかかる可能性があるので、食べられません」
- b. 「カルシウムが不足するので、妊娠前よりカルシウムを50mg余分に摂取しましょう」
- c. 「リステリア食中毒の恐れがあるので、生ハムは避けた方がよいです」
- d. 「葉酸は妊娠前より余分に摂取する必要があるので、サプリメントで摂取することをお勧めします」
- e. 「カフェインは、赤ちゃんの出生体重と関連があるといわれているので、摂りすぎに注意しましょう」

(4) 妊娠24週時点のAさんへの母乳育児支援で適切なものはどれか。次のa～eの中から2つ選びなさい。

- a. 母乳産生のメカニズムについて話す。
- b. 入浴時に石鹸を使って乳頭をこすり洗いするよう伝える。
- c. 乳頭吸引器を使って乳頭を引き出しておくよう伝える。
- d. 右側の乳房では直接授乳は難しいと伝える。
- e. 人形を使ってポジショニング・ラッチオンの練習をする。

【問2】分娩期の経過を示す。次の(1)～(3)に答えなさい。

Aさんは妊娠41週3日、陣痛発来し、8時に入院した。「陣痛が10分間隔になったのは5時ごろです。それからどんどん痛くなって、今は腰が痛いです。さっき、病院に来る途中で水っぽいものが流れてきたんですが、大丈夫ですか」と訴えた。

入院時の内診所見は、子宮口：4cm 開大、展退度：60%、児頭下降度：-3、子宮口の硬さ：中、子宮口的位置：中央であり、児頭が直接接触した。内診時に透明の水様性の膣分泌液がみられ、BTB試験紙をつけると黄色から青色に変色した。胎児心拍数モニタリング所見は、陣痛周期：5分、陣痛持続時間：50秒、胎児心拍数基線：140bpm、胎児心拍数基線細変動：10～20bpm、一過性頻脈：3回/40分あり、一過性徐脈なし。昨夜は前駆陣痛で眠れなかった。食欲はなく朝食は摂取していない。

その後、Aさんは21時に子宮口が全開大し、22時43分に3,620gの女児を分娩した。児のアプガースコアは1分後8点、5分後9点であった。Aさんの出血量は480mLであった。

(1) 入院時の助産師の判断で正しいものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 正期産の時期である
- b. 微弱陣痛である
- c. 分娩第1期の活動期である
- d. ビショップスコアは6点である
- e. 前期破水である

(2) 入院時の助産師の対応で適切なものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 階段を歩行するように促す。
- b. 糖質が多く高カロリーな食べ物を摂取するよう勧める。
- c. 入浴を勧める。
- d. 分娩監視装置を一旦、取り外す。
- e. 腰部の温罨法を提案する。

(3) 分娩が産婦に及ぼす影響について、() に正しい語句・数字を [] から選んで入れなさい。ただし、同じ語句・数字を何度使用しても構わない。

- a. 分娩中の呼吸数は ()。
- b. 分娩中の血液凝固能は ()。
- c. 分娩中の血圧は分娩の進行とともに上昇するが、最大血圧 () mmHg を超えることはない。
- d. 分娩中は体温が上昇するが、() °C を超えることはない。
- e. 分娩中は () の影響により、胃の運動性が低下する。

| | | | | | | | | |
|---------|--------|---------|--------|-------|------|------|------|------|
| 増加する | 減少する | 亢進する | 低下する | 変化しない | | | | |
| 130 | 140 | 150 | 160 | 170 | 37.0 | 37.5 | 38.0 | 38.5 |
| エストロゲン | オキシトシン | テストステロン | プロラクチン | | | | | |
| プロゲステロン | | | | | | | | |

【問3】産褥・新生児期の経過を示す。次の（1）～（4）に答えなさい。

Aさんは、産褥1日目から母児同室を開始し、2～3時間おきに授乳を行っている。

産褥2日目、Aさんは「おっぱいちゃんと出ているのでしょうか。産んだら勝手におっぱいがどんどん出てくるんだと思っていました。おっぱいが出ていないのに、赤ちゃんに吸わせて意味があるのかって思ってしまいます。乳首が凹んでいるし、小さいから私には無理なのかな」と流涙しながら話した。エジンバラ産後うつ病自己評価票は6点であった。

体温：37.0℃（腋窩温）、血圧：136/78mmHg、脈拍：74回/分、尿蛋白（±）、両下肢に浮腫が軽度みられた。子宮底は臍下1横指の高さに硬式テニスボール様に触れた。悪露は赤色で少量であった。

乳管開口数は左右3～4本、粘稠性の高い黄白色の乳汁がにじむ程度分泌している。乳房緊満はないが、熱感が軽度みられる。Aさんは、児がよく泣いてから授乳を行っている。

生後3日目、B児は高ビリルビン血症のため、スタンド型光線療法ユニットによる光線療法の適応となった。

産後（1か月）健康診査時、Aさんは「夫も義理の母もすぐに次の子が欲しいって言うんです。でも、私はまだ、そんな気にはなれなくて。きょうだいはいた方がいいと思うけれど、2～3年くらいはあけたいなと思っています」と話した。現在、Aさんは母乳育児をしているが、夜間に人工栄養を補充することがある。月経は再開していない。

（1）産褥2日目のAさんの状態について、アセスメントで正しいものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 妊娠高血圧症候群である
- b. 退行性変化は産褥日数に応じている
- c. 乳汁生成I期の段階である
- d. 授乳のタイミングは適切である
- e. 産後うつ病を疑う

(2) 乳汁の産生・調節過程について、次の①～⑥に正しい語句を入れなさい。

新生児が乳頭を吸啜すると、脳下垂体（ ① ）から（ ② ）が分泌し、腺房細胞で乳汁が産生される。また、脳下垂体（ ③ ）から（ ④ ）が分泌し、射乳反射を起こさせて、母乳を乳腺房から押し出す。この内分泌主導による乳汁分泌・産生の調節過程を（ ⑤ ）コントロールという。

(3) 生後3日目のB児について、Aさんへの説明で適切なものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 「黄疸の悪化予防のためにビタミンKを生後5日目に内服します」
- b. 「母乳育児は黄疸の原因になるのでしばらくやめましょう」
- c. 「光線療法を24時間行った後は、採血でビリルビンの値を確認します」
- d. 「光線療法の副作用で便が白くなることがあります」
- e. 「効果的に治療するため、全身裸で行います」

(4) 産後（1か月）健康診査時におけるAさんへの家族計画に関する健康教育で、適しているものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 「低用量ピルが使えます」
- b. 「子宮内避妊具（IUS・IUD）を使用しましょう」
- c. 「授乳を続けていれば避妊の必要はありません」
- d. 「コンドームを使いましょう」
- e. 「卵管結紮法を受けましょう」

Ⅳ 次の【問1】～【問5】に答えなさい。

【問1】表2に、令和3年における人口動態統計の日本の年齢階級別小児死亡の3大原因を示す。次の①～⑤に当てはまる死因を [] の a～i から選びなさい。

表2 年齢階級別小児死亡の3大原因

| | 1位 | 2位 | 3位 |
|--------|-------|---------------|-----------------|
| 新生児 | (①) | 周産期に特異的な呼吸障害等 | 胎児および新生児の出血性障害等 |
| 乳児 | (①) | 周産期に特異的な呼吸障害等 | (②) |
| 1～4歳 | (①) | (③) | (④) |
| 5～9歳 | (③) | (④) | (①) |
| 10～14歳 | (⑤) | (③) | (④) |
| 15～19歳 | (⑤) | (④) | (③) |

- | | | | |
|--------------|--------------------|----------|----------|
| a. 悪性新生物（腫瘍） | b. 自殺 | c. 心疾患 | d. 脳血管疾患 |
| e. 乳幼児突然死症候群 | f. 先天奇形、変形および染色体異常 | | |
| g. 肺炎 | h. 敗血症 | i. 不慮の事故 | |

【問2】新生児における熱の喪失経路を示す。次の a～d の経路の名称を記入しなさい。

- a. 皮膚温と環境の表面温度との差によって起こる経路
- b. 皮膚表面や気道粘膜からの不感蒸泄による経路
- c. 皮膚表面に接する空気の動きによって生じる経路
- d. 互いに接する物体の温度差によって起こる経路

【問3】新生児・乳幼児の反射とその消失時期の組み合わせで正しいものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. ランドー反射 ————— 3～4 か月
- b. 吸啜反射 ————— 5～6 か月
- c. ルーティング反射 ——— 6～7 か月
- d. パラシュート反射 ——— 8～9 か月
- e. 足底把握反射 ————— 10～12 か月

【問4】Scammon（スキヤモン）の発育曲線（図2）を示す。図中の①～④に当てはまる語句を「 」のa～iから選びなさい。

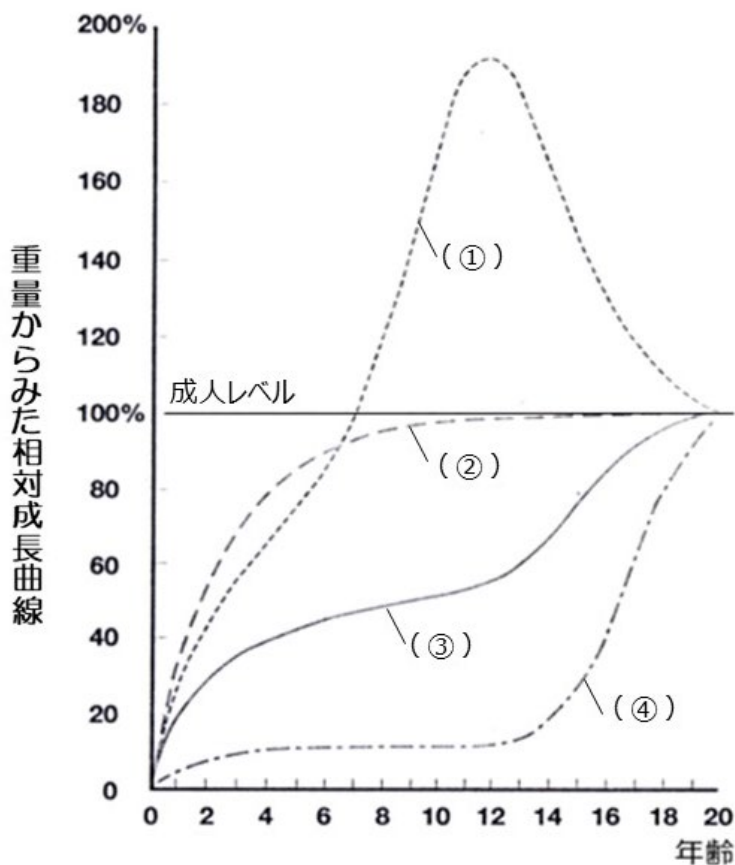


図2 Scammon（スキヤモン）の発育曲線

- a. 局 所
- b. 呼吸器系
- c. 循環器系
- d. 消化器系
- e. 神経系
- f. 生殖器系
- g. 全身（一般）
- h. 内分泌系
- i. リンパ系

【問5】事例 を読んで、次の（1）～（3）に答えなさい。

7歳、男児。身長120cm、体重20.0kg。家族は、父親・母親・妹（5歳）の4人暮らし。

小学校の健康診査で、難聴の疑いを指摘されて、母親と妹と一緒に、初めて耳鼻咽喉科を受診した。聴覚器構造の評価のためにMRI検査を受けることになった。

（1）男児のローレル指数は116である。男児の数値を用いて、計算式を示しなさい。

（2）男児のローレル指数の評価はどれか。次のa～eから選びなさい。

- a. やせ形
- b. やせ気味
- c. 正常
- d. 肥満気味
- e. 肥満

（3）看護師の対応で誤っているものはどれか。次のa～eの中からすべて選びなさい。

- a. 男児と家族に、担当看護師であることを自己紹介する。
- b. 家族に対して、男児と一緒に話を聞いてもらうことを提案する。
- c. 男児には、検査のすべての内容を知らせない。
- d. 家族に対して、既往歴・手術歴を確認する。
- e. イラスト・写真入りのパンフレットを使って、男児にMRI検査の説明をする。

